三重県保険医協会　歯科学術研究会

口腔内スキャナーで歯科臨床は変わるのか？

7月9日（日）
10時00分～12時00分

参加費 **無料**

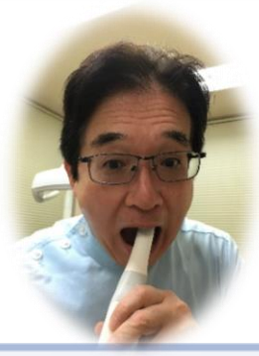
［会 場］ホテルグリーンパーク津 ＜ 藤・萩の間 ＞

［対 象］会員、会員医療機関に勤務するスタッフ 等

［定 員］現地参加：20名／オンライン参加：100回線（先着）

講師

篠田デンタルクリニック
篠田 鉄郎　氏



～ 講演内容や参加申込は裏面をご覧ください ～

お申込み先
お問い合わせ先

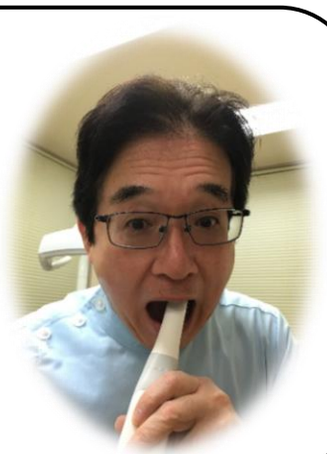
主催 三重県保険医協会

TEL 059-225-1071

FAX 059-225-1088

参加申込は
こちらから →

【 講師ご略歴 】



1985年：大阪歯科大学卒業
1986年：名古屋大学医学部口腔外科入局
1987年：同大学院入学
1991年：同修了、医学博士
　　同病院助手
1993年：名古屋市緑区にて開業
1998年～2015年：藤田医科大学口腔外科非常勤講師
2015年～2016年：中国山東省済南市可恩口腔非常勤医師
　　（インプラント）

【 講師からのメッセージ 】

「口腔内スキャナーで歯科臨床は変わるのか？ 」

篠田デンタルクリニック（愛知県名古屋市）　篠田 鉄郎　氏

現在わが国では10機種以上の口腔内スキャナー（IOS）が承認され発売されているが、残念ながら国産は一つもない。次期点数改定でも保険導入の見込みはない。

その普及率は４～５％と言われ、約半分は院内完結型のCERECである。

筆者はこれまで15年間に渡ってIOSを試用してきたが、特に7年前にTRIOS3を個人輸入してから実際に臨床に使用できるようになった。

現行の口腔内カメラ型IOSは複数画像データの重ね合わせなのでどうしてもステッチング部で画像が変形し、特に犬歯の前後歯列部分で変形が大きくなってしまい湾曲の強いブリッジは適合しない。結論から言えば単冠や３～5歯のブリッジであればシリコン印象と同等以上であるがクロスアーチや全顎印象ではアルジネート印象並みの精度しか得られない。

理論上３Ｄ模型がプリントできればどんな補綴物も製作できるがＰＦＭや義歯は逆にコスト高となってしまいメリットがない。特に３Ｄプリンターは全くの期待外れであった。

IOSによるデジタル補綴の目的は　①作業時間の短縮　②コストの削減　③納期の短縮　でありアナログな補綴物をデジタルで作ることではない。

それでもIOSはこの50年間で最も大きな歯科のイノベーションであって演者の日常臨床は上記の3つのメリットを享受している。

本講演ではどのメーカーの影響も受けず自分の体験により「最も安く、効率的に」IOSを活用する方法を解説する。

2023年7月9日（日）「歯科学術研究会」参加申込書

三重県保険医協会（栗原・藤原）／ＦＡＸ番号 ： ０５９－２２５－１０８８

参加者名	参加形式	職種	職務年数
	現地参加・WEB参加		年　ヶ月
	現地参加・WEB参加		年　ヶ月
	現地参加・WEB参加		年　ヶ月

医療機関名　　TEL：　（　　）

会　員　名　　FAX：　（　　）

メールアドレス　　@

※WEB参加の方に参加用URL等を送信します。メールアドレスを必ずご記入ください。
（参加申し込み用URL：https://docs.google.com/forms）